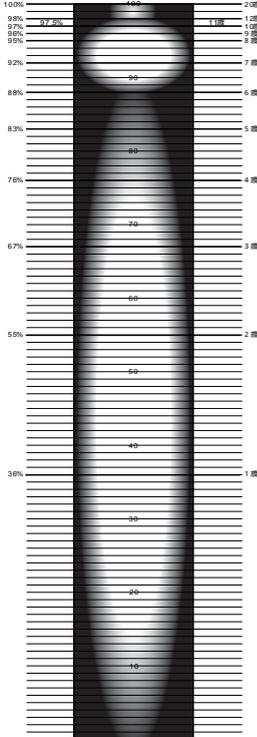


注目すべきは、急成長していた運動細胞の成長が5〜6歳で成長を減速させていることです。これは、体の成長に使っていたエネルギーを言葉思考の発達のために頭の成長に使っているからだと考えられます。そして、その丁度、真ん中に最も大切な具象から抽象の世界への飛躍点があります。

有名なスキャモンの発育曲線 (神経型) を棒状グラフに変換した図です。20歳で頭脳が成熟する (100%と考えると) ときの成熟度を表しています。



土の中では日光という刺激は役に立たないのです。

この時期は刺激ではなく栄養が大切！  
スピードではなく考える力を付ける！

頭の鍛錬は抽象思考が完成するこの時期以降が最適。

95%を超えることで本来の機能が働き出します。本来の機能とは抽象思考ができる頭の働きのことと、これまでの具象思考とは全く異なる性質のもので。そして、1年後に飛躍点となる9歳を迎えます。この壁を乗り越えることでヒトは人間となるのです。言葉の集大成としての抽象思考を得るのです。この時まで十分に「考える力」を養っていないと、ガソリンの入っていないエンジンと同じで頭は本来の機能を発揮できないままで形だけ大きくなります。

- 大地に染みこんだ栄養たっぷりの水を吸収して大きな根を作っていく。
- 体験に裏付けされた情報豊かな言葉を吸収して思考力を付けていく。
- 日光という刺激は不要で成長を守ってくれる豊かな土が成長を促進する。
- 速度という刺激は不要で成長を守ってくれる豊かな環境が成長を促進する。
- 強烈な日差しは作物を根幹から枯れさせる。
- 無用の反射訓練は頭を内面から枯れさせる。

